

日本におけるデータスペースの定義

日本には多くのデータ連携基盤が乱立する状況にあり、データ連携基盤の共通項を整理し、“データスペース”という用語の定義をを明らかにする。

過去の討議等を受け、日本で求められるデータスペースの定義案を以下のように整理した。

データスペースとは

合意されたガバナンスルールの下で、データが人の判断を介さず自律的に動き、リアルエコノミーを動かす社会を実現するための仕組みである。

データの連携・共有を必要とする者が、各々が生成あるいは収集したデータを相互の信頼の下で連携するためにガバナンスルールを定め、そのルールに則したデータの連携・共有を実行するための技術的・制度的なメカニズムをいう。具体的には以下の3点を満たすものとする。

要件

1. ルールに従う誰もが参加できること
(開放性・公平性・相互運用性)

2. ガバナンスルールに基づきデータを管理できること
(ガバナンス・自律分散性・コンプライアンス)

3. 参加者を信頼し、安全にデータの連携・共有ができること
(トラスト・信頼性)

概要

- 公開されたガバナンスルールを遵守する国内外の誰もが参加できること
- 極力簡素な技術であって大規模な投資を必要としない可用性の高い技術に基づいて構築されていること
- ガバナンスルールに基づくデータの連携・共有ができる仕組みであること
- 必ずしも、特定の者による集中管理を必要とせず、必要なときに必要な者がデータの連携・共有を行える仕組みとなっていること(分散管理)
- 各国の法律に準拠してデータの振る舞いを制御できること
- データ提供者、受領者の真正性が保証されており、相互に信頼性を確保した形で連携が行えること
- 信頼した相手にのみ選択的にデータの連携・共有が確実にできること